

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201587		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム服織 (2ユニット共通)		
所在地	静岡県葵区羽鳥2-15-50		
自己評価作成日	令和3年 10月 13日	評価結果市町村受理日	令和3年 12月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和3年 11月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>経験豊かな職員と若い職員、技能実習生と幅のある職員によりケアを行っています。職員の関係性はよく、ご利用者のケアに対してカンファレンスで話し合い、各職員の意見も聞きながらケアが行えています。ご利用者の出来る事は維持できるように考え支援しています。また、医師、ナース、歯科衛生士、薬剤師とも情報共有しながら、ご利用者一人一人の健康面にも心がけています。コロナ禍でもあり、地域とのつながりがなかなか取れない一年でした。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は今年度より当該事業所の配属となり、コロナウィルス禍であったが利用者、家族、職員との関係性を図り全体をまとめている。利用者と家族の関係性が希薄になりがちなコロナウィルス禍において、新たに法人各事業所でインスタグラムを開設して利用者の様子をアップしている。ホームページには過去7年余りの運営推進会議議事録の掲載があり、利用者の推移や職員の異動、当時の出席者や家族の意見や要望などを公表している。振り返りから改善に繋げることが可能であること、さらには運営の透明性の観点からも評価に値する取り組みである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに掲示し、出勤・退勤時に常に目に入るようにしている。 評価シートを半年に一度実施し、その中でも確認している	法人理念「その人、そのために」を基に、事業所理念「穏やかに心豊かに過ごせる家」を掲げている。理念をより理解するために、理念に焦点をあてた言葉を職員全体で話し合い、年度目標の設定について今後検討していく。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所のパン屋さんから、週1回、朝食用にパンを配達してもらい交流を継続出来るようにしている。 コロナ禍で、以前のように交流が持てていない。	現在は地区防災訓練や祭りへの参加、中学生の職場体験受入れは中止している。回覧版は継続して職員と一緒に次へ届けている。今後は行政や地域の動向に合わせて、徐々に地域交流を再開していく予定である。	近隣の古くからの関係性や立地条件等により、事業所に迎えての地域交流は困難な状況である。今後は回覧板等で事業所の役割を発信するなどの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、事業所に集まり話し合いができていないが、定期的に報告はしている。 一方的な報告になっており、外部からの意見などは聞く機会がない	地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、大家、家族等の出席はあるが市担当者は出席していない。今後、市担当者と数多くの家族が参加できるように、開催日程を検討していく。過去7年余りの運営推進会議議事録をホームページで公表している。	事業所の状況や利用者の様子以外に、家族が知りたい事や不安に思う事を議事内容に取り入れることが望ましい。会議の案内をする際に、参加者の声が聞けるような取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出しているが、一方通行。 生活支援課、社会福祉協議会の権利擁護担当者とはご利用者の事で話をする機会もある	運営推進会議議事録は地域包括支援センターに直接届けており、普段から有益な情報や意見が得られている。市窓口には郵送していたが、今後は窓口へ足を運んで動向を確認したり会議への出席をお願いして関係構築に努めていく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で定期的に、課題等を持ち寄り委員会を開催し、各ホームでの委員会4回/年、勉強会3回/年を開催し、身体拘束廃止に取り組んでいる。 日頃のケアの中でも、疑問に思った事は、職員間で話し合いをしている。	身体拘束チェック表の結果報告書を基に、法人全体の事故・身体拘束廃止委員会で課題を抽出している。各事業所で現状を振り返り、課題について改善策を協議している。当該事業所では声掛けの仕方について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止同様。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用しているご利用者がいる為、簡単な説明は出来るようにしているが、勉強会は開けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時に管理者からご家族へ説明をしている。また、「不明な点はいつでも聞いてほしい」と、その時に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、苦情相談窓口を設けている。	管理者は、家族との関係性がコロナ禍により希薄になることを不安に感じている。お便りや介護計画書発送の際に返信ができる機会を設ける等、家族の意見や要望を必要としている「事業所の姿勢」を表面化させていくことに努めていく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体会議にて、聞くようにしている。また、その都度、職員から話がある事は、意見として上司に上げている。	年2回の人事評価を個人面談と位置付けて話を聞く機会がある。管理者含め職員間の関係性は良好であるが、立場や状況によっては声掛けが難しいとの意見がある。意思疎通を図る意味で、言葉の代わりにジェスチャーを取り入れる方向で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	分科会、管理者会議などで、各事業所の状況を把握しあい、職場環境、業務改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価制度を取り入れ、職員個々の勤務状況の把握、各自の向上心の働きかけるように努めている。 定期的な、研修の企画も進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社とのつながりは、特別機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居されてからの一か月は、センター方式を使い、ご本人の今までの様子を知ることに努めている。また、ご本人、ご家族から情報を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から、入居前の状況を話しを聞くよう努めている。また、面会時などに話しをするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族から聞き取った事、情報を職員で話し合い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が行える事、難しい事をセンター方式などで把握し、家事など、できる事に注目し支援出来るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも、入所しても一緒に支えている事を話をさせて頂き、コロナ禍で面会ができない時も、電話で話しをしたり、通院のご協力などをお願いするなど、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会はできないが、以前は友人のメンカイ等もあった。	コロナ禍以前は車窓ドライブで自宅付近や思い出の場所を訪れていた。現在は家族と電話で会話をしたり、お便りに利用者の思いを書いて郵送している。面会再開の目処を家族に伝え、再開に合わせて面会ブースを設置する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話ができる方などをみながら、食事の席を一緒にする、また、運動を一緒に行う等、他者との関わりが持てるように職員が間に入り支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの働き掛けはしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、本人・家族からの意向を聞くようにし、職員間で話し合いをし、対応できるように努めている。	日常生活で利用者と会話を交わす中で、「利用者の言葉」を聞き取り記録に残すことを周知しているが、徹底するまでには至っていない。本人の性格や行動習慣、癖などから思いを想定し、家族にも確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から、聞き取れるように努めている。また、家族からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送り、記録、定期的なカンファレンスで情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の普段の様子、家族の意向などを確認し、定期的なカンファレンスで職員の意見をききながら作成している。	短期目標に沿ってモニタリング表を作成し、カンファレンスで実施状況を検証している。ケアマネジャーが再アセスメントを行い、介護計画を作成して家族の同意を得ている。ADL(日常生活動作)に関しては医師に相談している。見直しは短期半年、長期1年が基本であるが、変化に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にケアの実践、気づきを残しモニタリングし、カンファレンスでお互いの意見を出し見直しながら作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、他サービスが利用できないかなど、関係者に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、できていない 以前は、近所の店に買い物、避難場所の確認を一緒に行くなどしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認し、今までのかかりつけ医へ希望の場合は、ご家族協力のもと継続している。また、緊急時の場合、協力医療機関に相談し対応している。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問歯科を受けている。協力医は24時間対応が可能で、同医院看護師による訪問が週1回ある。歯科医の訪問は月1回で、希望者のみ対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録、送り表などで情報共有し、連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供をしており、入院中も連絡し状況を確認している。また、退院時も病院から情報をもらっている。かかりつけ医への情報ももらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向の確認をしている。また、気持ちが変わった時はいつでも変更が出来ることも伝えられている。看取り期間になった時は、主治医から家族へ話しがあり、ホームで出来る事できない事を伝え、家族の意向確認をしながら支援している。	年1回協力医による研修があり、看取りについて学んでいる。協力医で可能な看取り対応を家族に伝え、職員が寄り添って支援している。看取りマニュアルはないが、バイタルサインの変化に応じて医師や看護師に連絡している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、確認できるようにしている。また、緊急連絡先を各事務所に貼り対応できるようにしている。技能実習生には、常に職員に報告をする事を伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な、水害、地震、火災を想定した訓練を、防災委員を主に行っている	訓練は年2回実施しており、今後は夜間想定での実施を定例化させていく。防災委員が3日程度の備蓄を管理しているが、備蓄品リストは作成されていない。法人全体でBCP(事業継続計画)に着手し、現在、事業所間での協力体制構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止、虐待防止の研修を行い、職員で話し合い、注意しあえる職場環境に努めている	尊重の思いを言葉に乗せた言葉かけを目指し、語尾が強くない話し方を職員全員で話し合っていく。見守りの都合でトイレのドアを開放してしまいがちであるが、接遇チェック表などを活用して改善に繋げていきたいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話、表情からくみ取れるように努めている。 本人に選択できるよう、声掛けを努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の動きをみて、どうしたいのか聞き支援している。 朝、起きれない時は食事の時間を遅くするなど、その方の状態をみて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選択できる方は、本人にお任せし、できない方は、大変な所は支援している。 ご自分で、髪を編める方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けで、一緒に出来る調理は行っている。 味見など手伝ってもらっている。 食器洗い、食器拭きは一緒に行っている。 食器拭きを当番制で行っている。 苦手な食べ物、別のものに対応している。	食事は全て職員の手作りで、当日の職員が献立を決めている。朝食は一汁三菜、昼食は少しボリューム重視で、夕食は消化の良い食材を選んでいる。食欲が出るように明るい茶碗に変えたり、むせがちであればトロミをつけてみたりと工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、把握できるようにしている。 水分量が少ない方は、種類を変え時間を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声をかけ歯ブラシを行い記録し、共有している。歯科衛生士が入っている方は、衛生士からアドバイスをもらい支援している。 歯科衛生士により、定期的に口腔内のチェックが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ表を使用し、パターンを把握している。人によっては、時間をみて誘導している。夜間、ベット上でも日中トイレで排泄出来る方は誘導している。自分で出来る所は、行ってもらえるよう声かけ支援している	退院後に布パンツに改善した人は、現状維持できている。アセスメント表と排泄チェック表から、個々の癖やパターンを把握して誘導や見守りを行っている。自立している人の申告漏れがないように、見守り後直ぐに記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確認し、水分を促している。牛乳の提供など 毎日、体操の時間を提供し体を動かすようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が入浴したくないという時は、時間・日を変え対応している。 拒否が続く時は、対応職員を変え声をかける等工夫している。	入浴は2日おきで、現在は全員が午前か午後に入浴している。脱衣所は冷暖房完備で、季節に合わせて湯温調節を行っている。コロナ禍により現在は毎回お湯を入れ替えているが、今後については本部と検討していく。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居間でうとうとしているときは、自室で休むか等声をかけ、ご本人が休みたい場所は選択してもらっている。 夜間は、照明の明るさ、室温などの調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師を連携をし、状態の把握をしている。 内服時は、1人で支援せず2人で確認出来る環境で支援している。記録に薬の情報があり、いつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は当番制にし、みんなができる事は行えるようにしている。 誕生日、祝日などに食事などを工夫し、楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、回覧板を届ける程度しか行えていない	事業所周辺は狭いでこぼこ道に囲まれていて、歩きでも移動が難しい環境である。職員も利用者も散歩には消極的であるが、車で紅葉見学に出かけている。南向きの庭は日当たりが良く、プチ菜園がある。椅子を置いて日光浴したりお茶を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、買い物支援が行えていない。家族と相談し、本人がお金を持っていないと落ち着かない方には、本人用に本人が管理している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一回、家族への報告のお手紙を出す際に、本人にも書いて頂いている。家族へ電話をしたい。という方には、電話をつないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をし、清潔保持に努めている。食事時は、テレビのボリュームを下げたり、音楽をかけるなど工夫している。エアコンの風が直接あたらないように、風向きが変わるように工夫している。	ラジオ体操に参加したり、個々に屈伸運動や健康器具(しあわせの坂道)で身体を動かす人もいる。塗り絵や折り紙、かるたやトランプに喜んで参加する人もいる。季節の飾りは、現在クリスマスバージョンを製作中である。訪問調査中に昼食の食欲をそそる匂いが漂っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、音楽を聴いたり、新聞を読むことが出来ている。 ソファで一休み出来る場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が使い慣れたものを持ってきてもらえるよう家族に伝えている。 写真を置くなどの工夫もしている。	ベット、エアコン、クローゼット、洗面台等が備え付けで、テレビやタンス、時計や仏壇等が持ち込まれている。壁に塗り絵や写真、カレンダーを貼る人もいる。昼食後に居室でくつろぐ利用者が数名いる。冬場の乾燥対策として各居室に濡れタオルをかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人個々の動きをみて、居間の席、テーブルの配置を考え工夫している。 居室も同様。		